

2 城内地区の特性と課題

(1) 城内地区の特性

特別な地区

城内地区は歴史文化ゾーンのほぼ中央に位置し、近世に尼崎城が築城され、本市の都市形成の基礎となった特別な地区である。また、尼崎城に関連して、戸田氏鉄や契沖の由緒が伝えられるなど、本市における歴史文化の重みのある場所でもある。



尼崎城跡推定図（出典：尼崎市教育委員会）

近代建築などの地域資源

廃城の後、城跡に市役所、県立病院、警察署、学校など中核的公共施設が立地した。現存する旧城内中学校や旧尼崎警察署、城内高校、旧阪神電鉄発電所などは、明治から昭和初期にかけての貴重な近代建築として評価も高い。城内地区は、尼崎城という近世の歴史の上に、近代の歴史文化が積み重なっている地区である。

しかし近年の社会構造の変化に伴い、一部施設が遊休化しており、今後の保全と利活用のあり方が課題となっている。



旧城内中学校



旧尼崎警察署



城内高校



旧阪神電鉄発電所

阪神尼崎駅周辺の利便性と都市魅力

城内地区は阪神尼崎駅に近い便利な地区であり、中央・三和・出屋敷の商業地区、アルカイク・庄下川東地区の都市的文化地区、寺町地区など、個性的で多様な都市魅力のある地区に隣接している。

さらに阪神西大阪線延伸線の開業（平成21年春予定）によりますます利便性が高まることが予想される。

文教的環境と落ち着いた住環境

地区内には学校、図書館などの公共施設が地区の約半分を占め、住宅地は主に昭和初期に開発された低層住宅地であり、比較的落ち着いた文教的な雰囲気を備えている。

(2) 城内地区の課題

歴史文化ゾーンを中心として本市の魅力向上と地域活性化への貢献

城内地区は、本市の歴史文化に関するアイデンティティの形成や都市全体の魅力づくり、良好なイメージ形成に果たすべき役割が大きい特別な地区である。

また、歴史文化ゾーンの中心にあり、寺町、大物、築地をはじめ、中央・三和・出屋敷地区やアルカイク・庄下川東地区などの都市文化地区などと連携することで、今後の阪神西大阪線延伸線開業によるポテンシャル向上を活かしながら、観光促進など地域活性化にも貢献することが期待される。



中央・三和・出屋敷商店街



アルカイク街区

地域資源を活かしたまちづくりの推進

地区内にある近代建築など地域資源を有効に活用すると共に、歴史文化ゾーンの中央に位置する地区として、周辺にあるユニチカ記念館や尼信記念館・博物館、寺町、大物、築地などと連携したまちづくりを進めていく必要がある。この際、地域資産の活用という観点から、従来型の「スクラップ&ビルド」ではなく「ストック活用」の視点に立ち、本物の価値や魅力、歴史的な重みを活かし、地域全体の魅力を高めることが重要である。

明治、大正、昭和初期の建築物自体の歴史的価値、デザインの価値の保存・継承という意義と共に、特に学校建築では、地域住民や卒業生などの「心のふるさと」、「暮らしの歴史」の保存という意義もある。

成良中学校（旧城内中学校）については市立中学校の再編に伴い、平成18年度末に現在の旧育英中学校敷地に移転する。歴史的価値の高い旧城内中学校校舎の特徴を活かした施設の再利用が望まれる。

旧尼崎警察署においては、昭和46年に市に移管後、城内地区出張所・城内児童館として利用されていたが、震災以降は使用されておらず、建物全体の老朽化に加え、雨漏りなどにより建物の腐食が進んでいる。特に地下部分については市に移管された後も利用



ユニチカ記念館



尼信記念館



寺町



大物主神社（大物）



初嶋大神宮（築地）

されていなかったため、管理状況が悪く、コンクリートの中性化と鉄筋の腐食が進行していることから、早急に保全対策を施すとともに、何らかの利用を再開する必要がある。

市民活動の促進

阪神尼崎駅北では中央公園・歩行者デッキを活かしたイベント開催や、総合文化センターをはじめ市民の文化的活動が盛んで、都市型住宅開発がすすみ、新たな居住階層が流入している。また、中央・三和・出屋敷地区ではTMOが商店街振興だけでなく地域づくりとしての活動に取り組めるなど、新たな活動が芽生えている。

城内地区が主に歴史文化に係わる市民活動や文化活動の拠点、あるいは多様な主体のまちづくり活動の場となることで、新たな活気を生み出し、元気で文化的な地区を形成することが期待される。

城址公園周辺計画の対応

市制70周年記念事業として昭和61年度に策定した歴史博物館構想については財政難から平成14年度から事業を休止しており、買収を進めた用地は更地となっている。貴重な展示資料など、これまでに収集された資産が十分に活かされていない状況にある。

城址公園については、一部供用を開始しているが、歴史博物館構想と同様、事業は休止している。また、中央図書館については、これらの事業休止の影響を受け、主入口が仮設階段に留まっているなど課題を有している。

今後の市財政が構想策定当時のような好転が見込めない中、また、当時想定していなかった城内中学校や城内児童館（旧尼崎警察署）施設の遊休化など周辺状況の変化があり、歴史博物館及び城址公園一帯について、今一度、考え方を整理すべき時期にきている。